

[巻頭言]

「紀要第23号」の発刊に寄せて

地域に根差した取組、また、高大連携の一環として、平成30年2月に千葉県高等学校教育研究会工業部会（以下、「工業部会」という。）と連携協定を結びました。工業部会は、県立の工業系高校8校で組織され、当校はこれまで傘下の高校の研究発表会の審査委員の派遣、機器等の貸与等のお手伝いをさせていただいていました。連携の主な目的は、これまで以上に高校生に対して多様な学習機会を与えること、相互の教育交流を通じ、高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めること等としています。

連携協定へのきっかけは、千葉県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会千葉職業能力開発短期大学校部会（以下、「短大校部会」という。）です。短大校部会は、外部委員（学術経験者、労働者代表、中小企業等代表、行政機関等）8名によって当校の業務運営に際して、この連携協定を結ぶべきとのご意見をいただいたからです。

協定後は、これまでに加え工業部会の活動等で当校の会場も活用していただき、また、工業部会で行われる生徒の発表会の上位3位までを、当校で毎年2月に開催する学生等の発表の場であるポリテックビジョンにおいて一緒に発表していただいています。また、ある高校に対し特別授業もさせていただきました。今後いろいろな面において連携を密にしていきたいと考えています。

さて、平成31年5月から令和元年5月に変わりました。第4次産業革命と言われるロボットやAI、IoT等ますます拡充する年になるでしょう。これらに対応した新たなカリキュラムも必要になります。当校は2年課程であり、基盤技術をしっかり身につけることに重点を置いています。新たなカリキュラムを追加するには時間的に厳しいものがあります。今後当校にも応用課程の設置を期待しているところです。

本紀要は、教員が教育訓練に係る調査・研究や教材開発、専門技術分野に係る調査・研究をまとめたもので、教員の自己研鑽の一端を記載したものです。一人でも多くの方々に読まれ、教育訓練の向上・発展のため、また、地域社会・産業に貢献するため、関係各位から忌憚のないご意見、ご批評をいただければ幸いです。

令和元年10月

関東職業能力開発大学校附属
千葉職業能力開発短期大学校
校長 松中 孝二